

つなぐ・つながる 仙台子ども生活応援プラン 中間案に対するご意見と仙台市の考え方・対応(一覧)

意見 No.	ご意見	仙台市の考え方・対応	担当局
○ 第2章 子ども・子育ての現状と課題(2件)			
1	<p>P27「経済的支援と自立に関する課題」において、「保護者が希望する支援として最も多いのは、生活や就学のための経済的補助である」との記載がある一方で、P28において、「ひとり親は、パート・アルバイトとして就労をする割合が高い状況にある」との報告が挙げられています。現在、日本においては女性の労働状況におけるL字カーブが残存しており、年取の壁も多く残されており、多くの割合の子を持つ世代の女性がひとり親となった際に子供と共に貧困に陥る可能性が残存しています。ひとり親の方を特に念頭に置きながらも、すべての子を持つ世代の国民がフルタイム・正規職で労働できる環境の整備が必要なのではないでしょうか。政策立案ができる自治体であるからこそ「広報や情報の提供」以外にも、原因に目を向けた「インセンティブ設計」や他部門を巻き込んだ「環境づくり」ができるのではないのでしょうか。発生した問題に対処するだけでなく、計画の方向性の中で背景要因への対処によりフォーカスする必要があると考えます。</p> <p><b>【環境整備案】</b>                      ○仙台市立小学校:長期休みの廃止(給食による子供の栄養確保の利点)、不必要な大荷物(プランターなど)の持ち帰りの廃止、PTA廃止                      ○仙台市立保育園・こども園:保留児童をなくす、希望する人すべてが病児保育を利用できる環境、施設入園予約の拡充、残業を考慮した保育時間の確保、夜勤や夜間シフトに対応した保育施設の充実                      ○ひとまち交流、NPOとの連携:児童館の拡充(夜間受け入れ)</p>	<p>より良い雇用条件による就業は、生活の安定と子どもの成長のために重要であると認識しております。不安定な雇用条件で就労することが比較的多いひとり親家庭の保護者に対しては、引き続き、ひとり親家庭等相談支援センターにおける就業相談や就業支援セミナーなどにより、個別の家庭状況や本人の意向に応じた就業支援に取り組んでまいります。</p> <p>また、保護者の就労形態の多様化等に伴う保育需要については、一時預かりや休日保育、病児・病後児保育により、引き続き子育ての負担軽減に取り組んでまいります。</p> <p>なお、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>	子供未来局
2	<p>シングル家庭に関する課題について。近年、離婚率も増加しており、母子、父子家庭は珍しくない。その中で、親一人で子どもを支えていく事は、重責を背負わなければならない。経済的、精神的、身体的な負担は大きい、子どもを一人前にする為に、自らを犠牲にして子育てをしなければならない。実際、私は母子家庭で子どもを2人育ててきた。義務教育を経て高校、専門学校へ進学させる為の大きな課題は、経済的なものだった。片親の私だけの収入では追いつかず、区役所に掛け合い、金融公庫、社会福祉協議会を活用しながら何とか学校を卒業させたという経緯がある。母子、父子家庭に対しての生活支援、学習支援がもう少し充実することで、シングル家庭でも安定した養育ができると考え、貧困から親の精神的なダメージから虐待や養育不調に追い込まれるケースは少なくないと考えられる。</p>	<p>ひとり親家庭は生計の維持と子育てにかかる負担が大きいため、ひとり親家庭の子どもを対象とした無料の学習支援、生活支援や、ヘルパー派遣による日常生活の支援により、負担軽減と生活の安定に向けた支援に取り組んでまいります。</p>	子供未来局
○ 第3章 基本目標と基本的な方向性(3件)			
3	<p>P29「施策推進の基本的な方向性」について、子どもだけでなく、家庭を支えること、そのために地域の連携体制の必要性に言及している点に同意します。</p>	<p>医療機関や保育施設、学校、地域の子育て支援団体等、子育て家庭を見守る目が多いほど困難を抱える家庭の早期発見につながるものと考えられるため、関係機関等との連携の促進を図り、支援を必要とする子育て家庭の早期発見に努めてまいります。</p>	子供未来局
4	<p>P30「福祉の窓口からの接触も困難な子育て家庭を早期に発見」という部分について、困難を抱える家庭は、家庭からのSOSの発信自体が難しいケースも多いと感じるので、行政側から発見に努めていく視点は本当に重要であると考えます。</p>	<p>困難を抱えながらも相談することが難しい方や、相談する余裕がない方などについて、アウトリーチ型の支援等により、早期に発見し必要な支援につないでいくよう努めてまいります。</p> <p>また、行政に対してハードルが高いと感じている方が、必要な情報や支援を受けられるよう、引き続き、行政以外の窓口との連携に取り組んでまいります。</p>	子供未来局
5	<p>施策の基本的な方向性3-(2)「支援する人材・体制づくりと各種機関・団体の連携」について、地域全体の保育の質を向上させていくこと、その為には人材育成は必要不可欠なことと考える。</p>	<p>保育の質の向上や人材育成につきましては、保育施設への巡回支援や運営相談などのほか、保育士の階層別研修や、乳児保育研修、支援を必要とする利用者に対応するための特別(保育)支援コーディネーター研修などの各種研修を体系的・計画的に実施しております。</p> <p>引き続き、これらの取り組みを通じて人材育成を図り、保育の質の確保・向上に努めてまいります。</p>	子供未来局

つなぐ・つながる 仙台子ども生活応援プラン 中間案に対するご意見と仙台市の考え方・対応(一覧)

意見 No.	ご意見	仙台市の考え方・対応	担当局
○ 第4章 施策の展開(6件)			
6	<p>第4章 施策の展開では、それぞれの支援の事業や、委員会等立ち上がっていますが、P15の【図表20】によると、行政の制度を利用している割合が少ないようです。行政を利用するのはハードルが高かったりするのではないのでしょうか。P19の【図表25】子ども食堂の利用状況などを見ても明らかに利用は少ないです。利用が少ない理由として、「相談するのに、難しい手続きがいるのではないか」、「相談しても、『様子を見ましょう』で終わりにされるのではないか」、「以前嫌な思いをした」などが考えられます。経済的に逼迫している状態にある、または、給付金がもらえるなどのメリットがなければ、わざわざ役所には行かないと思います。せめて、市政だよりも、分かりやすい、見やすい紙面で困窮している方への呼びかけを工夫したらいいのではないのでしょうか。</p>	<p>窓口や制度を利用したい方がスムーズに利用できるように、分かりやすい広報に努めてまいります。また、行政に対してハードルが高いと感じている方が、必要な情報や支援を受けられるよう、引き続き、行政以外の窓口との連携に取り組んでまいります。</p>	子供未来局
7	<p>私は、小学4年生の時に離婚された子どもです。離婚された子ども代表としての意見を書きます。</p> <p>P36 No.23「スクールカウンセラー配置事業」について                  スクールカウンセラーが実際に抱えている子どもは何人いますか？離婚件数の増加やステップファミリーなど様々な課題のある家庭は増えていますが、増えているからといって当たり前ではありません。子ども一人一人にとっては重大な出来事です。                  相談しない子=支援不要ではなく、我慢している子です。小学校、中学校、高校の時期は、思春期でもあり、反抗心もあり、やけに高い自律心もあり、気軽に相談できない気持ちがあります。でも30才を過ぎても何才になっても、おそらく、家庭環境からきている問題を乗り越えるまではずっと苦労します。                  一つでも家庭環境に心配のある全ての子どもに一年に一度でよいので、個別にカウンセリングをしてほしいです。自分の家庭以外のことを知らないで、子ども本人だけでは、SOSを出すことに勇気を持てませんでした。</p> <p>P36 No.28「ヤングケアラーピアサポートオンラインサロン」について                  何かしら家庭に問題のある子、あるいは離婚家庭などにありながらカウンセラーに相談しない子は皆、ヤングケアラーだと思います。                  子どもは親を支えるために、早く大人になっています。親を支えるために、懸命にやり過ぎています。                  それは一見良いことのようにですが、大切な子ども時代を失っています。無我夢中で生きてる本人にはわかりません。カウンセラーさんと話をする機会を与えて、相談すべきことだと教えてあげてほしいです。</p> <p>P40 No.63「母親教室・両親教室の充実」について                  子どもの貧困の連鎖を止めるには、「大人になって自分で築いた家族、家庭を幸せにすること」だと思います。                  残念ながら、私達は子育ての良い方法で育てられています。理想の母親像や父親像すらイメージできないのです。                  親にされたことをして育てれば簡単に幸せは崩れ落ちます。                  私達は自己肯定感も自己受容も低く、「こんな境遇だから幸せになれるはずがない」と本気で思っています。だからこそ、子育てで悩まないように、子育ての仕方、子どもの発達の仕方を丁寧に教える必要がある。パートナーシップについても、共に考え合える場が必要だと考えます。                  思春期を越えた、20代、30代の子育て世代になった元子どもを支えないとずっと連鎖します。                  産婦人科の母親・両親学級から継続して、例えば、「いないいないばあをして遊ぶと何の発達が促されるの?」「ハイハイをするには何をすべきか?」「歩くには?」「しゃべるには?」「泣いたらどうすればいい?」などその時期に何をすることで、何の発達が促されるのかを少しずつ細かく教えていく、そういう定期的な親子で通える場であったり、SNS活用だったりをしていくと効果があるのではないかと思います。                  私は保育士をしているので、そういうところを支えたいし、実行するためにどうするか、模索しています。私に出来ることを協力したいくらい本気に考えています。                  正直なところ、電話相談やカウンセラーへの相談はしたいと思っても、恥ずかしさや勇気のなさから相談できませんでした。子どもが自分から相談するハードルは高いです。また、こういった親はお金のこと(高校からの学費)しか考えてません。小学校高学年からはほとんど大人扱いをします。                  当事者は、がむしゃらに生きています。子どもを持ち始めた20代、30代、とても辛いです。そこを支援しないと解決しません。                  仙台から、子育ての負の連鎖が止まることを心より願っています。</p>	<p>スクールカウンセラーは、すべての市立学校に週1回ずつ配置し、児童生徒や保護者を対象とした教育相談を行っているところです。相談の希望がない場合にカウンセリングを実施することは難しいものと認識しておりますが、ヤングケアラーなど、支援を必要とする子どもの早期発見・支援に取り組むとともに、子どもが相談しやすい環境づくりに努めてまいります。                  また、子育てへのサポートとして、母親教室・両親教室のほか、「訪問型子育て支援事業」等を通して、様々な事情から相談することが難しい保護者の相談機会確保に引き続き取り組んでまいります。</p>	教育局 子供未来局

つなぐ・つながる 仙台子ども生活応援プラン 中間案に対するご意見と仙台市の考え方・対応(一覧)

意見 No.	ご意見	仙台市の考え方・対応	担当局
8	No.56「子育て支援ショートステイ」について、ショートステイのお子さんを預かっている立場として。お母さんの子育てのレスパイトや母、兄弟の入院のためなど様々な理由で預かっています。子育てに困っているお母さん、出産を安心してしたいお母さんを応援し、支えてあげたいと考えています。現在、入所しているお子さんの所でお預かりしているので、健康面、人員面、空き状況など考慮することが多々あります。緊急の入所があるため1ヶ月の利用も難しい状況です。ショートを利用する施設に(利用中だけでも)補助できる保育士や看護師を配置して頂けると、より利用しやすくなると思います。	子育て支援ショートステイにつきましては、今後の利用者ニーズの傾向を見ながら、より利用しやすい環境への対応に努めてまいります。	子供未来局
9	P49、No124「保健師等母子保健従事者の職員研修の充実」について、幅広い支援事業がある一方で、心理士をはじめ多くの専門職について年度会計の非正規職員に頼らざるを得ない予算編成は、当該事業の「職員の専門性、技術の向上」と相反するのではないのでしょうか。仙台市の公表を拝見できませんでしたが、地方自治体に勤務する公務員の3人に1人は、任期最長1年の不安定雇用の非正規公務員であり、そのうち4分の3は女性であるといった記事も拝見します。上記意見(No.1)にも記載しました女性のL字カーブを促進する雇用条件は見直していく必要があると考えます。	母子保健に関わる専門職につきましては、業務に要する時間やその内容に応じて、正職員と会計年度任用職員で役割を分担しております。また、会計年度任用職員の任期は最長1年ですが、再度の任用も可能であり、研修についても、正職員と区別なく実施し、職員の専門性、技術の向上を図っているところです。なお、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。	子供未来局
10	小学校で教員をしている者です。P50、No.134「児童相談・心理指導・親子こころの相談／児童相談所」、No.136「発達相談支援センター「アーチル」による障害児相談支援、施設支援についてです。学校と家庭をつなぐスクールソーシャルワーカーや発達支援センター等の充実を強く願います。近年やっとな、教育現場の多忙が指摘されてきましたが、家庭事情による児童の不登校や、発達支援相談の対応がとても大変です。教員不足により、特別支援コーディネーター担当教員が、クラス担任をしながら他クラスの面談に立ち会わなければいけなかったり、各申請書類を作成しなければならなかったりしています。不登校支援については、日中に児童の指導を終えた後、放課後にその日の振り返りや授業の準備、お便り作成などを行いたいの、電話連絡や家庭訪問で時間が取られません。担任にとって不登校児も大切な児童の一人ではありますが、担任の負担が大きすぎるのが現状です。せめて、日中の家庭訪問や他機関との繋がりを取り持つ役を、上記に挙げたスクールソーシャルワーカー等におこなっていただきたいと考えます。	スクールソーシャルワーカーにつきましては、各学校の要請に応じて、事務局に配置した8名を派遣しているほか、中学校を拠点に週1回配置しており、近隣の小学校への巡回訪問も行っております。令和5年度からは学校配置のスクールソーシャルワーカーを増員し、児童生徒が置かれた環境を改善するための働きかけ、保護者・教職員等に対する支援等に取り組んでまいります。	教育局
11	中間案について賛同致します。子ども・家庭共に、専門的な支援を要するケースは増加傾向にあり、私共、児童養護施設現場でも、様々な関係機関と、より密に連携を取り、対応していかなければならないと痛感しています。	家庭の抱える課題が複雑化・深刻化しているケースでは、ひとつひとつの課題を解決するために、様々な関係機関と情報を共有し、連携して対応する必要があると認識しております。引き続き、関係機関との連携の促進を図り、課題を抱える子育て家庭への支援に取り組んでまいります。	子供未来局
○ 第5章 計画の推進(1件)			
12	P53「各施策の実施状況の把握」について、公表する指標については、たとえば高校進学率など本人の自立促進に関するものだけでなく、ウェルビーイングの向上や公助・共助の充実を図るような指標も検討する必要があると考えます。	ウェルビーイングの向上については、事業単位で測ることが難しく、施策を総合的に評価するため、計画の改定にあたって実施するアンケート調査にて、生活の満足度を調査するなど、その方法について今後検討してまいります。	子供未来局

つなぐ・つながる 仙台子ども生活応援プラン 中間案に対するご意見と仙台市の考え方・対応(一覧)

意見 No.	ご意見	仙台市の考え方・対応	担当局
○ その他(6件)			
13	基本目標と方向性について、とてもよくまとめられていると感じています。具体的施策に対する周知(啓発)を対面・非対面含めて広く展開していただくことが、より具体的施策を認知いただくことになるかと思えます。対外に係るプロモーション方法を費用面でも積極的に推し進めて、特に対象となるご家庭に届くようにしていただきたいと思えます。また、ステップのどこかに、対象家庭を限定した家族交流旅行(県内)を提案いたします。生活できること、をターゲットとされた具体的施策であると思えますが、遊びの中で交流を促進させ、交流の中で悩みを交換でき、またお子様にとっては抱えている想いを旅行を通じて良い経験へと変えていく、このようなイベントがあっても良いと感じます。その他、家庭の就業支援策では、是非コールセンター(コンタクトセンター)をご活用ください。様々な雇用形態があり、ご家庭の事情に合わせて就業していただくことが可能だと思えます。	支援施策や事業について、必要とする方に届きやすい情報発信となるよう努めてまいります。なお、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。	子供未来局
14	全てにおいて、どんな者が見て、読んでも、もっと分かりやすく記して欲しい。	本プランを含め、市民のみなさまにお知らせする広報物の記載内容について、分かりやすいものとなるよう努めてまいります。	子供未来局
15	ボランティアにて困難を抱える子どもを対象としたNPOに参加していると、こどもの食環境が大変気がかりです。科研費研究報告:領域番号23500896( <a href="https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-23500896/23500896seika.pdf">https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-23500896/23500896seika.pdf</a> )にもありますように、炭水化物への偏りや欠食を多く聞かれます。親が夜間不在で自分で買って食べざるを得ない状況、作り置きを兄弟に食べられてしまう状況などがあるかあそこ、家以外の場所での給食およびその栄養素の拡充がより一層求めらると思えます。フードバンクなどの食糧支援も広がっていますが、すこやかプランにも記載がありませんので、栄養の視点を取り入れる必要があると考えます。また、親の言語化されるニーズと子供の潜在的なニーズは異なることが考えられますので、こどものデータを合わせたデータの利活用および調査分析の必要性があると考えます。	子ども食堂の実施団体へ費用の助成を実施するほか、食生活については、保育所や学校における食育の推進、訪問栄養指導により、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けられるよう、引き続き取り組んでまいります。また、ニーズにつきましては、実態調査の際に保護者と子どもそれぞれにアンケートを実施しており、子どもの意見を取り入れた支援について検討してまいります。	子供未来局 教育局 健康福祉局
16	このようなプランが策定され、心強く感じる。	子どもの貧困対策及びひとり親家庭等の自立促進に向けて引き続き取り組んでまいります。	子供未来局
17	このようなプランがあることを初めて知りました。仙台に住んでいて心強いと感じました。		
18	障害児は仙台子ども生活応援に入っていないのでしょうか。医療費も所得制限、重度心身障害医療費助成も所得制限、重度障害者タクシー助成も所得制限、放課後等デイサービスも所得制限で高額なため、きょうだい児がヤングケアラーとなっています。いくら子どもにアンケートしても書く意味がないと諦めています。子ども支援を等しくしてください。貧困支援と子ども子育て支援は別物です。2021年の未来応援給付金も所得制限でまだもらえていません。臨時交付金はどこにいったのですか？一律に平等に支援してください。	障害のある児童や発達に不安のある児童に対する支援につきましては、仙台市障害福祉計画・仙台市障害児福祉計画により、引き続き取り組んでまいります。また、子ども支援として、令和5年4月より、子ども医療費助成の所得制限を撤廃し、子育て家庭の経済的負担の軽減に取り組んでまいります。	子供未来局